

陸連時報 三

2016
平成28年

3 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2016年を迎えて(専務理事 尾縣貢).....	166
強化関連情報.....	167
第2回ダイヤモンドアスリート研修合宿および第2回U19オリンピック育成競技者研修合宿 報告	
2016日本グランプリシリーズ情報.....	169
2015年度JAAF U16トップトレーニングキャンプ報告/	
日本陸上競技連盟栄養セミナー 2016開催要項.....	172
“日清カップ”第18回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会報告	
(普及育成委員会 普及育成部 熊原誠一).....	174
国際陸上競技連盟 (IAAF) カウンシル会議報告 (会長 横川浩).....	175
国際陸上競技連盟 (IAAF) から各国陸連等に発信される通達文書一覧.....	176
2015数字で見る陸上競技 Vol.4 都道府県別高校生陸上競技部員割合.....	177
大会観戦ガイド.....	178
陸協NEWS.....	180
事務局からのお知らせ.....	182

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2016年を迎えて

専務理事 尾 縣 貢



リオデジャネイロ・オリンピック・パラリンピック大会の年を迎えました。スポーツ界にとって、オリンピックイヤーは区切りの年であり、4年間の強化活動の集大成と位置づけることができます。それとともに、2020年東京オリンピックに向かって様々な活動を展開している競技団体にとっては、リオデジャネイロ・オリンピックはマイルストーンの意味を持ちます。8月12日から始まる陸上競技に向けて、本連盟の総力をあげて取り組んで参ります。

オリンピックに向けての強化を推進するとともに、引き続き日本陸上競技連盟の組織基盤の安定にも最大限の努力を払い、陸上競技のアイデンティティーの再構築を図っていく必要があります。昨年は、ロシアの組織ぐるみのドーピング問題、国際陸上競技連盟幹部周辺でのドーピング隠蔽などの不祥事が明るみになり、世界のスポーツの中で、陸上競技の地位は、危機的状況に陥っていると言えます。失った信頼を少しずつでも回復していくためには、国際陸上競技連盟が総力をあげて抜本的改革に取り組むとともに、加盟国それぞれが他の範になるような活動を地道に実行していくことが肝要かと思えます。

2016年が陸上競技にとって、そして本連盟にとっても飛躍の年になるよう以下にあげる活動に邁進して参ります。

リオデジャネイロ・オリンピックに向かう

昨年の第15回世界陸上競技選手権大会（北京）では、日本選手は健闘はしたものの、事前に設定した数値目標を大きく下回る成績に終わりました。大会後、それまでの強化活動の評価点検を行い、リオデジャネイロ・オリンピックまでの強化計画を確認したうえで、新たな強化体制のもと強化活動を展開しています。

8月までの半年あまりで急激な競技力の向上は難しいでしょうが、オリンピック本番で選手が持てる力を十分に発揮できるようにするための強化活動を実施するとともに、事前合宿やリオデジャネイロ現地で十分なコンディショニングができるようにサポート体制の充実を図っていきます。それとともに公平かつ透明な選手選考ができるように最善を尽くしたいと考えています。

既に男女マラソンおよび競歩の国内選考会は始まっており、6月24-26日の第100回日本陸上競技選手権大会まで選

考会が続きます。選考競技会の開催に御尽力をいただきます加盟団体ならびに後援・協賛いただきます各位に感謝申し上げます。

クリーンなアスリートの育成

日本は、競技者、指導者、医師、競技団体などの倫理観が優れており、アンチドーピングの精神が強く尊重されているため、世界でも最もクリーンである国の一つだと言えます。そのような状況の日本のスポーツ界においても、陸上競技は常に先頭に立ち、アンチドーピング活動を推進していくべきです。これが、一連のドーピング問題で評価を下げている陸上競技の国際的評価を高めることにつながると信じています。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックを迎えるにあたり、「競技力向上をドーピングなどの違法行為に決して頼らない」という強いメッセージになると考えます。

医事委員会の活動に留まらず、強化委員会や普及育成委員会などの活動においても、トップレベルおよび育成レベルのアスリートとそのコーチを対象に、機会ある毎に啓蒙・啓発活動に取り組んでいきます。

中長期計画の作成

日本陸上競技界が目指すべき目標を明確にし、具体的な施策が打てるように、昨年から中長期計画の立案に取り組んでいます。中期は2020年、そして長期は2040年あたりをゴールとした計画になります。この計画は、アスリートの競技力の強化は元より、陸上競技の普及、マーケティングの強化、登録の整備、競技会カレンダーの見直し等の様々な課題を含みます。そして、これらの活動を支える日本陸連の各委員会の活性化、加盟団体や協力団体との連携強化を図る施策なども明確にしていく予定です。昨年から地域陸上競技協会に出向き、現状の把握、課題の抽出、要望の整理などを進めており、これらを中長期計画に反映させていきたいと考えています。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けての活動

アスリートの強化については、これまで再三表明していますので、ここでは割愛いたします。アスリートの強化とともに重点的に取り組まないとならない課題は、競技運営能力の向上です。これは、公平・安全・安心、そして観客が楽しめる競技会運営を可能にする取り組みを意味しています。この活動に関しましては、競技運営委員会を中心にオールジャパン体制で取り組んでいく予定です。各加盟団体からも精鋭を派遣していただきオリンピック・パラリンピックの陸上競技会を運営する上で必要となる能力の育成を進めていきますので、加盟団体の御協力をお願いします。

これらの活動を展開する上で、加盟団体、協力団体、スポンサー各社、陸上競技ファンの皆様の支えは必須となります。理事会および全委員会、事務局の総力を結集して、目標に向かってまいりますので、今年の日本陸上競技連盟の活動、そして2020年に向けての活動にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

強化関連情報

第2回ダイヤモンドアスリート研修合宿 および第2回U19オリンピック育成競技者研修合宿 報告

強化育成部U19 幹事 大橋祐二

2020オリンピックプロジェクトチーム 幹事 岩瀧一生

2016年1月9日(土)から1月12日(火)まで、第2回ダイヤモンドアスリート研修合宿および第2回U19オリンピック育成競技者研修合宿が味の素ナショナルトレーニングセンターにて実施された。本合宿では、アスリートソサエティーとJOCキャリアアカデミーの協力の下、トレーニングのみならず様々な研修が行われた。また、トレーニングにおいては「タレントトランスファープログラム」を実施し、専門種目以外のトレーニングを体験した。以下にその詳細を報告する。

1. リーダーシッププログラム(※ダイヤモンドアスリートのみ対象)

第2回目のリーダーシップトレーニングでは、ゲストに伊藤華英氏(北京オリンピック100m背泳ぎ8位入賞)、また、第3回目には、岩本亜希子氏(ボート競技オリンピック4大会出場)を招き、「自分自身の過去を振り返り未来について語る」ということをテーマについてディスカッションを行った。

2. 栄養講習

管理栄養士の長坂聡子氏に、「アスリートと栄養」というテーマで講話をしていただいた。また、選手が食事を



リーダーシップトレーニングの様子



語学研修



オリンピック講話



測定データのフィードバック

摂る際にも同席し、実践指導も行った。

3. メディアトレーニング

世界選手権のキャスターでフリーアナウンサーの中井美穂氏を招き、長年のインタビュアーとしての経験から、日本代表選手としてのメディア対応をアドバイスしていただいた。講義の最後には、中井氏から実際にインタビューを受け、多くの人の前で答えるロールプレイングを実施した。「2020年東京五輪で金メダルを目標にしたい」とコメントする頼もしい選手もいた。

4. 英語研修

外国人講師を招き、海外遠征や試合会場で想定される基礎的な英会話を指導して頂いた。

5. オリンピアン講話

バンクーバーオリンピックスピードスケート男子500m銀メダリストの長島圭一郎さんとアテネオリンピック体操男子団体金メダリストで現在リオデジャネイロ五輪男子強化本部長の水鳥寿思氏から、自身の競技人生を振り返りながら、未来のオリンピックに向けてメッセージを

頂いた。

6. 測定データのフィードバック

日本陸上競技連盟科学委員会から松林武生氏（国立スポーツ科学センター）、小山宏之氏（京都教育大学）、高松潤二氏（流通経済大学）を招き、短・跳・投ブロックに分かれ、11月の合宿の際に測定をしたデータと2015年度主要大会での合宿参加者の映像・データのフィードバックを行った。

7. タレントトランスファープログラム

強化育成部では、100mから400mHへトランスファーして成功を取めた為末大氏のような選手の出現の可能性を広げるために、タレントトランスファープログラムを積極的に取り入れている。短距離選手がハードル練習をしたり、投擲選手が跳躍コーチにバウンディングの指導を受けたりと、普段とは異なるトレーニングを実施し、参加した選手は多くの刺激を受けた様子であった。

JAPAN SPORT
COUNCIL
日本スポーツ振興センター



タレントトランスファープログラム



タレントトランスファープログラム2



メディアトレーニング



全体写真

2016日本グランプリシリーズ情報

2016 日本グランプリシリーズ開催期日及び種目配置

(男子)

種目	エントリー 規定数	参加標準記録	1	2	3	4
			兵庫 4月24日(日)	織田 4月29日(金・祝)	和歌山 4月30日(土)~5月1日(日)	静岡 5月3日(火・祝)
100m	24	10.40		予選/決勝		
200m	24	21.00				予選/決勝
400m	24	46.90				決勝
800m	16	1.50.00				決勝
1500m	16	3.48.00	決勝			
5000m	-	13.43.00		決勝		
10000m	-	28.26.00	決勝			
110mH	24	14.00		予選/決勝		
400mH	24	51.00				決勝
3000mSC	16	8.55.00	決勝			
走高跳	12	2m14				決勝
棒高跳	12	5m20		決勝		
走幅跳	12	7m65		決勝		
三段跳	12	15m75		決勝		
砲丸投	12	16m00				決勝
円盤投	12	50m00	決勝			
ハンマー投	12	62m50			決勝	
やり投	12	72m00		決勝		
十種競技	16	6800			決勝	
実施種目数(GP種目)			4	7	2	6

(女子)

種目	エントリー 規定数	参加標準記録	1	3	2	4
			兵庫 4月24日(日)	織田 4月29日(金・祝)	和歌山 4月30日(土)~5月1日(日)	静岡 5月3日(火・祝)
100m	24	11.90		予選/決勝		
200m	24	24.45				予選/決勝
400m	24	55.35				決勝
800m	16	2.09.00				決勝
1500m	16	4.22.00	決勝			
5000m	-	15.50.00		決勝		
10000m	-	33.20.00	決勝			
100mH	24	13.80		予選/決勝		
400mH	24	59.60				決勝
3000mSC	16	10.30.00	決勝			
走高跳	12	1m73				決勝
棒高跳	12	3m70		決勝		
走幅跳	12	6m00			決勝	
三段跳	12	12m40			決勝	
砲丸投	12	13m80				決勝
円盤投	12	46m00	決勝			
ハンマー投	12	54m00				決勝
やり投	12	52m50		決勝		
七種競技	16	4800			決勝	
実施種目数(GP種目)			4	5	3	7
男女計(GP種目)			8	12	5	13

2016 日本グランプリシリーズ 申込要領

兼 第31回オリンピック競技大会 (2016 / リオデジャネイロ) 代表選手選考競技会

参加資格	(1) 有効期限内に参加標準記録を満たした競技者 (2) 日本陸連強化競技者及び強化委員会が指定する競技者 (3) 主催陸上競技協会が承認した競技者 ○出場者は、主催者側が決定する。 ○競技運営上、参加標準記録を満たしても各種目の規定数に基づきエントリーできない場合がある。 ○ただし、エントリーされた上位競技者に欠場が出た場合は、主催者の判断で、繰り上げてエントリーされることがある。 ○各種目の、エントリーできる競技者の規定数は原則上記の通りとするが、主催者の判断で競技運営上問題がない場合、規定数以上の競技者をエントリーする場合がある。 ○男女5000m・男女10000mは規定数は設けませんが、競技運営上困難が生じた場合は参加資格を有する競技者であってもエントリーを制限されることがある。 ○参加標準記録を満たし、申込をした競技者で、規定数の関係でエントリーができなかった競技者の申込金は後日返金される。 ○日本陸連に登録している外国籍競技者のグランプリ種目への参加は、原則各種目の2015年度の最高記録を参考として上位6名までとする。					
参加標準記録有効期間	2015年1月1日より下記に定める各大会の申込締切日前日までとする。					
申込先・問合せ	別記 各大会事務局 ※主催陸上競技協会(広島・和歌山・兵庫・静岡)のホームページから各大会の申し込み方法に従い、申し込むこと。					
申込料	一般種目1種目 3,000円 / 混成競技 5,000円 *招待競技者は無料					
申込スケジュール	大会名	受付開始	申込締切	エントリーリスト公開	エントリーリスト更新日	大会
	日本GP第1戦 第64回兵庫リレーカーニバル	3月11日(金)	3月24日(木)	4月1日(金)	4月11日(月)	4月24日(日)
	日本GP第2戦 第50回織田幹雄記念国際陸上競技大会	3月18日(金)	4月11日(月)	4月18日(月)	4月25日(月)	4月29日(金・祝)
	日本GP第3戦 2016日本選抜陸上和歌山大会	3月18日(金)	4月11日(月)	4月18日(月)	4月25日(月)	4月30日(土)・5月1日(日)
日本GP第4戦 第32回静岡国際陸上競技大会	3月11日(金)	4月4日(月)13:00	4月12日(火)	4月22日(金)	5月3日(火・祝)	
出場可否及び ウェイティング リストからの 追加について	出場可否については、各大会事務局より本人宛へ詳細(招待競技者も含め)を通知する。(大会HPでも公開予定) エントリーリスト公開の際に、参加標準記録を満たしたが規定数の関係でエントリーできなかった選手は、ウェイティングリストに登録される。 エントリーリスト公開後に上位競技者に欠場が出た場合は、主催者の判断でウェイティングリストの上位競技者から繰り上げてエントリーされる。 追加される際は、各大会事務局より本人に通知する。 ※エントリーが確定した競技者で故障等で棄権が決まった場合は、ウェイティングリストからの追加の関係もあるため、速やかに大会事務局まで棄権届けを提出すること。					
未成年競技者 親権者からの ドーピング検査 に対する 同意書の取得	2015年1月1日より、世界アンチ・ドーピング規程、国際基準、及び日本アンチ・ドーピング規程が改定され、未成年(20歳未満)競技者が競技会に参加する際、親権者からドーピング検査に関する同意書を取得する事が必要となりました。 ① 本大会に参加する未成年者は、同意書を熟読し、署名、捺印の上、同意書の原本を大会に持参し、携帯する必要があります。同意書は http://www.jaaf.or.jp/pdf/doisho.pdf からダウンロード出来ます。 ② 未成年競技者はドーピング検査に指名された時に、原本をドーピング検査室にてNFR(大会医事代表)に提出する必要があります。提出は未成年時に1回のみで、同意書の提出後に再びドーピング検査に指名された場合は、すでに原本を提出済みであることをNFRに申し出て下さい。会場において、原本の提出がなくとも、検査は行われますが、検査後7日以内に日本陸連事務局に原本を提出する必要があります。					

2015日本グランプリシリーズ大会情報

日本GP第1戦 第64回兵庫リレーカーニバル 兼 第31回オリンピック競技大会（2016/リオデジャネイロ）代表選手選考競技会	
大会日	2016年4月24日（日）
大会会場	ユニバー記念競技場 〒654-0163 神戸市須磨区緑台 TEL:078-793-6150
大会事務局	〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸新聞社 地域活動局事業部内 TEL:078-362-7086 / FAX:078-360-5519
大会本部ホテル	ANA クラウンプラザホテル神戸 〒650-0002 神戸市中央区北野町1丁目 TEL:078-291-1121 / FAX:078-291-1151
申込ホームページ	http://www.haaa.jp

日本GP第2戦 第50回織田幹雄記念国際陸上競技大会 兼 第31回オリンピック競技大会（2016/リオデジャネイロ）代表選手選考競技会	
大会日	2016年4月29日（金・祝）
大会会場	広島広域公園陸上競技場 〒731-3167 広島市安佐南区大塚西五丁目1番1号 TEL:082-848-8484 / FAX:082-848-8460
大会事務局	〒730-0011 広島市中区基町4-1 広島県体育協会内 広島陸上競技協会 TEL:082-223-3256 / FAX:082-222-6991
大会本部ホテル	リーガロイヤルホテル広島 (RIHGA ROYAL) 〒730-0011 広島市中区基町6-78 TEL:082-502-1121 / FAX:082-228-5415
申込ホームページ	http://yasumikiyuki.web.fc2.com/index.htm

日本GP第3戦 2016日本選抜陸上和歌山大会 兼 第31回オリンピック競技大会（2016/リオデジャネイロ）代表選手選考競技会	
大会日	2016年4月30日（土）～5月1日（日）
大会会場	紀三井寺公園陸上競技場 〒641-0014 和歌山市毛見200 TEL:073-444-7565
大会事務局	〒641-0014 和歌山市毛見200 紀三井寺公園陸上競技場内 和歌山陸上競技協会 TEL/FAX 073-444-3662
大会本部ホテル	ホテルグランヴィア和歌山 〒640-8342 和歌山県和歌山市友田町5丁目18番地 TEL:073-425-3333 / FAX:073-422-1871
申込ホームページ	http://wariku.com/

日本GP第4戦 第32回静岡国際陸上競技大会 兼 第31回オリンピック競技大会（2016/リオデジャネイロ）代表選手選考競技会	
大会日	2016年5月3日（火・祝）
大会会場	静岡県小笠山総合運動公園 エコパスタジアム 〒437-0031 袋井市愛野2300-1 TEL: 0538-41-1800 FAX: 0538-41-1807
大会事務局	〒420-0839 静岡市葵区鷹匠1-14-31 吉野壽ビル2F 静岡陸上競技協会 静岡国際陸上事務局内 TEL/FAX:054-253-9801
大会本部ホテル	掛川グランドホテル 〒436-0028 掛川市亀ノ甲1-3-1 TEL: 0537-23-3333 / FAX: 0537-23-2290
申込ホームページ	http://www2.wbs.ne.jp/~nagata/t&f/

2016年度日本グランプリシリーズ春季大会招待選手

2016年度日本グランプリシリーズ春季大会の招待基準と招待競技者は以下の通りとする。

1. 招待基準

- 1) 日本陸連強化競技者（ゴールド・シルバー）
- 2) 日本陸連強化委員会指定競技者
- 3) 2015年度当該種目の日本ランキング1位の競技者
- 4) 2015年度日本選手権大会3位までの入賞者（但し、その種目）

2 招待競技者一覧

(男子)

種目	招待競技者
100m	藤光 謙司、高瀬 慧、桐生 祥秀、サニブラウン アブデルハキーム、川面 聡大、長田 拓也、大瀬戸 一馬、
200m	藤光 謙司、高瀬 慧、サニブラウン アブデルハキーム、飯塚 翔太、谷口 耕太郎、長田 拓也
400m	金丸 祐三、佐藤 拳太郎、田村 朋也、小林 直己、北川 貴理
800m	川元 奨、横田 真人、田中 匠瑛
1500m	村山 紘太、荒井 七海、広瀬 大貴、高谷 将弘
5000m	村山 紘太、鎧坂 哲哉、大迫 傑、村山 謙太、設楽 悠太、大六野 秀敏、宇賀地 強、山本 浩之、佐藤 悠基、小野 裕幸、横手 健、竹澤 健介、大石 港与、設楽 啓太、早川 翼、窪田 忍、出口 和也、星 創太
10000m	
110mH	増野 元太、大室 秀樹、高山 峻野、古谷 拓夢
400mH	野澤 啓佑、松下 祐樹、岸本 鷹幸、小西 勇太
3000mSC	松本 葵、瀧浦 大記、篠藤 淳、山下 洸
走高跳	戸邊 直人、衛藤 昂、平松 祐司、高張 広海
棒高跳	山本 聖途、荻田 大樹、土井 翔太
走幅跳	菅井 洋平、下野 伸一郎、嶺村 鴻汰、小田 大樹
三段跳	石川 和義、山本 凌雅、藤林 献明
砲丸投	畑瀬 聡、中村 太地、鈴木 孝尚
円盤投	堤 雄司、米沢 茂友樹、知念 豪
ハンマー投	野口 裕史、田中 透、土井 宏昭
やり投	新井 涼平、村上 幸史、ディーン 元気、高力 裕也
十種競技	右代 啓祐、中村 明彦、音部 拓仁

5) 上記に該当しない2015年度日本ランキング上位の競技者の中から、日本陸連強化委員会及び主催者が特別に推薦する競技者

※男女の5000mと10000mは、両種目とも有効とする。

ただし、5000m、10000mについては、下記の招待競技者の中で出場申込が確認された各種目招待基準の上位から6名前後の競技者を、大会主催者及び日本陸上競技連盟強化委員会で検討の上決定する。

(女子)

種目	招待競技者
100m	福島 千里、宮澤 有紀、土井 杏南
200m	福島 千里、藤沢 沙也加、市川 華菜
400m	青木 沙弥佳、藤沢 沙也加、石塚 晴子
800m	真下 まなみ、山田 はな、北村 夢、平野 綾子
1500m	陣内 綾子、須永 千尋、森田 香織
5000m	伊藤 舞、鈴木 亜由子、尾西 美咲、鷺見 梓沙、西原 加純、森 唯我、上原 美幸、高島 由香、清田 真央、松崎 璃子、萩原 歩美、牧川 恵莉、小原 怜、光延 友希、沼田 未知、安藤 友香、宮崎 悠香、田中 智美、日高 侑紀、山崎 里菜、松田 瑞生、関根 花観、岩出 玲亜、横江 里沙、藪下 明音、加藤 岬、桑原 彩、野上 恵子、清水 美穂、田中 華絵、坂井田 歩、松見 早希子、水口 侑子、竹地 志帆
10000m	
100mH	木村 文子、紫村 仁美、田中 杏梨、青木 益未
400mH	吉良 愛美、青木 沙弥佳、西田 文香
3000mSC	高見澤 安珠、森 智香子、佐藤 奈々
走高跳	渡邊 有希、井上 七海、津田 シェリアイ
棒高跳	我孫子 智美、竜田 夏苗、仲田 愛
走幅跳	甲斐 好美、岡山 沙英子、平加 有梨奈、永井 佳織
三段跳	宮坂 楓、中尾 有沙、吉田 麻佑、前田 和香
砲丸投	横溝 千明、太田 亜矢、松田 昌己、郡 菜々佳
円盤投	坂口 亜弓、藤森 夏美、中田 恵莉子
ハンマー投	綾 真澄、渡邊 茜、佐藤 若菜
やり投	海老原 有希、助永 仁美、斉藤 真理菜
七種競技	ヘンブヒル 恵、桐山 智衣、澤田 珠里

※男女5000m、10000mの招待競技者は、今後開催されるマラソンの結果によって追加の可能性があります。

2015年度JAAF U16トップトレーニングキャンプ報告

普及育成委員会U16担当副部長 舟橋昭太

U16トップトレーニングキャンプはトップアスリートの土台作りを目的にU16カテゴリーの競技者及び指導者の研修合宿として2010年度から実施され、今回で6回目の開催となり、延べ481名の選手が参加している。



U16トップトレーニングキャンプ集合写真

○参加資格

- ・都道府県陸協推薦選手（各1名）
- ・全日本中学校陸上競技選手権大会入賞者（1、2年生）
- ・ジュニアオリンピック競技大会B・Cカテゴリー優勝者
※800m以上の距離の種目、リレー種目は上記の対象外

○「全中から世界へ」

本年度のテーマは「全中から世界へ」というテーマを掲げ、選手及び指導者が世界へ目を向けるきっかけの場となることを目指した。中学生年代は、将来トップアスリートになる上でキャリアをスタートさせる重要な時期であると同時に国際大会の出場資格の低年齢化もありこの年代から世界へ目を向けることが重要となる。昨年開催されたアジアユースでは高校1年生が出場し、本キャンプに参加した選手たちも出場した。中学生年代における、走・跳・投の基礎技術の習得の重要性をU16クリニックはじめとする各講習会で伝えてきたが、改めて目先の大会での成果に捉われずに、世界を視野に入れた中長期的な競技者育成の重要性をこの時期から浸透させていきたい。

○ダイヤモンドアスリート、U19オリンピック育成競技者研修合宿、U16トップトレーニングキャンプ合同開構式
2020年東京オリンピックへ向け方向性をひとつに取り組む意図もあり、今年はじめてダイヤモンドアスリート研修合宿、U19オリンピック育成競技者研修合宿と合同の開構式を実施した。「10代のトップ選手が集結し、このメンバーで是非世界を目指して欲しい」という繁田理事のあいさつで始まった。



ダイヤモンドアスリート・U19・U16合同開講式の様子 写真提供：フォート・キシモト

○JOCキャリアアカデミーとの連携

実際の研修内容は、JOCキャリアアカデミーに協力を頂き、チームビルディング研修や、コミュニケーショントレーニング等の研修を実施した。「人間力の向上なくして競技力の向上なし」というJOCのコンセプトに基づいた研修が行われた。

○トップアスリート講和

JOCサポートの下、高平慎士、横田真人、金丸祐三、藤光謙司、猿山力也、岸川朱里、ハニカット陽子、木村慎太郎を講師に「アスリート講和」を実施した。選手70人を8グループに分け、各グループにアスリート1名が付き、自身の経験を1時間程度話し、U16の選手たちが、アスリートから学んだことをグループごとに模造紙まとめ発表を行った。日本では起きえない海外の大会で起きたアクシデント、普段の練習の心掛け、貴重なアスリートの経験談から、ひとつでも多くのことを学び、次のステップに生かしてもらいたい。



高平選手の話真剣に聞く選手たち 写真提供：フォトクリエイト

○トップ指導者講和

為末大氏の中学時代の指導者である河野裕二氏（CHASKI代表）を講師として招き、中学校年代の選手育成の考え方について講義とディスカッションを行った。

○トランスファープログラム

「トランスファープログラム」は専門種目に拘らず、全ての選手が「走・跳・投」の基本を実施し、本年度は「ハードル」、「走幅跳」、「走高跳」、「投てき」を実施した。

○U16トップトレーニングキャンプ参加選手調査

実際に本キャンプに参加した選手で、現在、ダイヤモンドアスリート、U19オリンピック競技育成競技者、世界ユース(2015)、アジアユース(2015)に選出された選手の一覧である。過去参加者から17名が次のステージで活躍している。



トランスファープログラム
(投てきブロックの走幅跳の練習) 写真提供: フォトクリエイト



参加年次	性別	氏名	ダイヤモンドアスリート	U19オリンピック競技育成競技者	世界ユース(2015)	アジアユース(2015)
2010	男	佐久間 滉大	○	○	—	—
2010	女	高松 望 ムセンビ	○	○	—	—
2011	男	山下 潤	○	○	—	—
2011	男	幸長 慎一	—	○	—	—
2011	女	エドバー イヨバ	—	○	—	—
2011	女	柴山 沙也香	—	○	—	—
2011	女	福田 翔子	—	○	○	—
2011	男	勝瀬 健大	—	○	—	—
2011	女	川村 知巳	—	○	—	—
2011	女	石岡 柚季	—	○	—	—
2011	女	中野 真琴	—	○	—	—
2011	女	壺岐 いちこ	—	○	—	—
2012	男	池川 博史	○	○	—	○
2012	男	宮本 大輔	—	—	○	—
2013	女	山田 美来	—	—	○	○
2013	男	久保木 春佑	—	—	—	○
2013	女	橋本 梨沙	—	—	—	○

日本陸上競技連盟栄養セミナー2016 開催要項

日本陸上競技連盟では食育プロジェクトを立ち上げ、選手指導者に対する教育プログラムなどを実施しています。この度選手の栄養サポートに関わる方に広く集まっていただき、栄養セミナーを開催することといたしました。第1回となる今回は「貧血について考える」をテーマに開催いたします。

アスリートにとって「貧血」は非常に重要な課題であります。安易に薬剤に頼らないためにどのような栄養サポートができるのかについて考えていきます。

【日時】2016年4月10日(日)13:00~17:00

【場所】味の素ナショナルトレーニングセンター・大研修室

【プログラム】

テーマ「陸上選手の貧血について考える」

受付 12:00

開会 13:00

閉会 17:00

プログラム内容(予定)

- ・講演:「貧血の種類と成因及び血液データの読み方」
真鍋知宏(日本陸連医事委員)
- ・講演:「貧血対処方法に関する諸問題(サプリメント、鉄剤、鉄注射問題等)」
山澤文裕(日本陸連理事・医事委員長)
- ・トークショー:「貧血との闘いを乗り越えて」
室伏由佳(円盤投・ハンマー投日本記録保持者・日本陸連普及育成委員)
- ・パネルディスカッション:「長距離選手の貧血について考える」

【参加人数】先着120名

※本講習会は日体協公認スポーツ指導者の義務研修として認められます。

※申込に関する詳細は、次号及び日本陸連WEBサイトにて決まり次第掲載します。

“日清カップ”第18回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会報告

普及育成委員会 普及育成部 熊原 誠一

日清食品カップ 第18回 全国小学生クロスカントリーリレー研修大会は、全国47都道府県代表チームと地元大阪の3チームを加えた50チームの参加により、平成27年12月12日（土）・13日（日）の2日間で実施された。

第1日目は、大阪府池田市民文化会館 大ホール（アゼリアホール）において、開講式と研修会・監督会議が行われた。

13時より選手団受付が始まり、14時に開講式が開始された。最初に司会者より、「陸上競技の基本を学び、よい友達づくりをすることを目的として、小学生期の長距離走・持久走についての正しい技能・トレーニング方法の習得を目指す」大会の趣旨説明と参加50チームの紹介が行われた。その後に主催者を代表して、公益財団法人 日本陸上競技連盟 普及育成委員会副委員長 東川安雄による歓迎と激励の挨拶が行われ、14時20分に開講式は終了した。

開講式後、監督者会議は14時30分から2階コンベンションホールに会場を移して行われた。主管である大阪陸上競技協会の司会進行で、大会当日の諸注意が説明された。

一方、小学生と他の指導者は引き続き大ホールで研修会に参加した。

研修会は日本陸上競技連盟普及育成委員会 井筒紫乃委員（長距離走・発育発達）と大畑好美委員（栄養）が講師として、クイズ形式で小学生に質問をしながら、発育発達とトレーニング、食事について、ゲストの日清食品グループ陸上競技部の白水昭興監督と諏訪利成コーチにも経験談などをお話ししながら、わかりやすく解説した。研修の最後には白水昭興監督と諏訪利成コーチに一言ずつお話しをしていただき終了した。15時15分には監督会議に出席していた監督も戻り、チームごとにまとまって、「インスタントラーメン発明記念館」見学へ向かった。

第2日目は場所を万博記念公園内特設コースに移し、クロスカントリーリレー大会が行われた。金曜日の降雨で足元が心配されたが、開会式前にはかなり強い日が差してきた。

10時45分からの開会式は、主催の公益財団法人 日本陸上競技連盟 横川浩会長、中曽根弘文評議委員会議長、東川安雄普及育成委員会副委員長、後援・協賛をいただいている公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団理事長・日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤宏基様、公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団評議委員会議長・日清食品ホールディングス株式会社代表取締役副社長・COO 中川晋様、公益財団法人 安藤スポーツ・食文化振興財団副理事長・日

清食品ホールディングス株式会社代表取締役専務・CMO 安藤徳隆様、主管の大阪陸上競技協会会長 松本正義様に御登壇いただき、参加50チームの選手団が整列して行なわれた。

主催者を代表して、横川浩日本陸上競技連盟会長と後援・協賛者を代表して、安藤スポーツ・食文化振興財団理事長・日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEO 安藤宏基様よりご挨拶をいただいた。

選手宣誓は、岩手県代表北上ジュニアランニングクラブの岩館伯君と斉藤璃杏さんの二人が元気よく行ない、大会を盛り上げてくれた。そして最後に、日清食品グループ陸上競技部の白水昭興監督と諏訪利成コーチを紹介して終了した。

気温 16.5度、湿度 64%と暖かい中で、11時30分に女子友好タイムトライアル、11時40分に男子友好タイムトライアルがスタートした。それぞれのレースには日清食品グループ陸上競技部の諏訪コーチが参加して、小学生と一緒に走ってくれた。

11時50分に第1走者が一斉にスタートした。北浜JRCの宮島恵那さんが4分59秒で最初にたすきリレーを行った。第2走者でアラマキッズが1位になり、順位の入替わりがあったが、第3走者からは北浜JRCが先頭を維持して、第6走者川村智哉君が先頭でフィニッシュした。優勝記録は30分54秒であった。

終了予定時間の12時30分までに49チームが完走した。13時から表彰式が行われ、入賞チームと区間最高記録賞の選手が表彰された。競技結果は日本陸上競技連盟ホームページをご覧ください。

なお、今回参加50チームの内、21チームが昨年に続く連続出場であった。さらに毎年のように出場する常連チームも見受けられるようになっている。大会が定着したともいえるが、普及・研修を目的とした大会としては、より多くのクラブチームに参加してもらい、より多くの子供たちが走ることに関心を持ち、継続してくれることを期待している。

最後に、後援・協賛の各団体と主管いただいた大阪陸上競技協会の皆様にご心より感謝申し上げます、報告とします。



第202回国際陸上競技連盟(IAAF)カOUNシル会議 報告

会長 横川 浩

第202回国際陸上競技連盟カOUNシル会議が、2015年11月26日、モナコで開催されたので、国際陸上競技連盟 (IAAF) のカOUNシルメンバーとして参加した。同会議の概要は以下の通りである。

1. Sebastian Coe会長の発言

- ・陸上界は、未曾有の危機に直面しているが、カOUNシルメンバーが一体となって、この局面を乗り切らなければならない。陸上界に信用を取り戻すのは容易な事ではないが、過去の反省から学び、前進する必要がある。
- ・WADA独立委員会が11月9日に報告書を発表した。これを受けて、11月13日に臨時カOUNシル会議が行われ、ロシア陸連 (ARAF) に暫定資格停止処分を科した。これは健全な反ドーピング体制を確立し、クリーンなアスリートを守るためである。ARAFの再建に向けた取り組みを確認する調査チームが立ち上げられ、責任者には反ドーピング専門家のルネ・アンダーソン氏が選出され、4名のカOUNシルメンバー (ホフマン氏、リカルディ氏、フレデリクス氏、ガードナー氏) が指名された。ARAFを孤立させるのではなく、会話を通じて事態の改善を推進する必要がある、ロシアオリンピック委員会、ロシア政府、WADAと密接に連携していく。
- ・会長に就任以来、組織体制の見直しを行っている。コミュニケーション部門やマーケティング部門の見直しを含め、組織の改善を図り、ガバナンス強化を推進していく。

2. ロシアのドーピング問題

- ・組織的なドーピング問題で暫定的な資格停止処分を受けていたロシア陸連がその処分を受け入れた事により、資格停止処分が確定した。ロシア陸連の資格停止処分には期間は設けられず、ロシア陸連が、IAAF調査チームの評価基準を満たしたと判断した時に、カOUNシル会議で解除を審議し、決定する。
- ・ロシアで開催予定であった世界ジュニア選手権と世界競歩チーム選手権の開催権利は剥奪されるので、新しい開催地の募集を行う。選考過程を透明化し、1月7日には開催地を決定、発表する。

3. 倫理委員会

- ・倫理規程の改正について合意し、2015年11月26日より有効となった。倫理委員を7名から9名に増加し、少なくとも1名の外部法律秘書が補佐する。倫理委員会は、IAAFに対して提案をする権限が与えられ、必要と認められた場合には、調査情報を関係者に開示する事もある。倫理規程の改正により、倫理委員会の活動手順が改善され、現状よりも早いタイミングで暫定資格停止といった決議を発令する事が出来る。

4. IAAF組織体制の見直し

- ・2015年9月の新会長就任後、約70名のIAAFスタッフの面談を含めた、IAAF組織のレビューが行われた。分析の結果、今後の組織内の課題として、業務ビジョンの共有、効率的な内部コミュニケーション、透明性の高い業務推進、強力なリーダーシップ等が挙げられた。
- ・コマース部門及びコミュニケーション部門の体制強化を推進する。監査を担当する独立した特別委員会を設立し、業務管理、財務管理の法的評価を行う。

- ・新たなIAAF執行部では、事務局長に代わり、CEOを置く。慎重な人材選出が必須であり、2016年中頃を目途に決定する。ガバナンスを示すには重要な組織体制の見直しと構築であり、早急に実施に移さなければならない。

5. インテグリティ・ユニット (IU)

- ・インテグリティ・ユニットの創設を推進する。IUは、IAAFのインテグリティを守り、クリーンな選手を育成する事を徹底させるために重要な役割を果たす。国際レベルの選手のドーピング、賭博、年令詐称の問題や、市民権の変更といった課題に取り組むと同時に、教育活動にも関わっていく。

6. IAAF競技大会

- ・世界ジュニア選手権、世界ユース選手権の呼称を各々IAAF World U20 Championships、IAAF World U18 Championshipsとする。
- ・2016年にスタートする、IAAF室内大会サーキットの正式名称は、IAAF World Indoor Tourとする。
- ・大会カレンダーの決定方法については、過去から検討が継続しているが、早急に決定していかなければならない。ダイヤモンドリーグとワールド・チャレンジの日程調整を行う等によって、より多くの選手が参加出来る環境を整える必要がある。

7. その他

- ・昨年10月に開催された、場外イベント技術代表セミナーは、大会のレベルを一定に維持して運営するには、重要な機会であり、参加者より高く評価された。
- ・現在のIAAF競技場公認システムでは、一度公認されると改修まで永続的であり、その結果、管理状態の悪い競技場が散見される。数年毎にチェックする体制を導入する事を視野に入れ、検討する必要がある。
- ・リオデジャネイロ・オリンピックの参加標準記録の変更が承認された。これは、参加標準記録を一部の種目で緩和する事によって、参加人数を適正人数に近づけるためである。
- ・選手コミッション委員6名が推薦により新たに承認された。世界選手権北京大会の選挙で選ばれた12名と合わせ、18名の委員で構成される。
- ・デジタルメディアやソーシャルメディアの可能性について、更なる検討を推進する。情報発信方法については、従来の考え方にとらわれずに柔軟に考えていく必要がある、最も大事な点は、陸上ファン (ユーザー) の多岐に亘る期待に応える事である。アクセスやコントロールの利便性 (ユーザーが時間、場所、方法を自ら決められる事)、単純なデータだけでなくそのスポーツの本質や裏側が見える事、ユーザーが参加、共有出来る事が挙げられる。
- ・2014年にワールド・アスレティック・シリーズ (WAS) をより魅力的なものにする方法を検討する目的で、ワーキンググループが設置された。陸上界は様々な問題に直面しており、ファンの高齢化、新しいスターの不在、ヨーロッパでの陸上人気の上昇等が挙げられる。陸上界は変革の時にあり、その具体的な手法を早急に決定していく必要がある。大会運営のリノベーションが必須であり、イベントプロモーションや放映内容についても、改善を推進し、より多くの陸上ファンの心を掴む大会を提供していかなければならない。

国際陸上競技連盟(IAAF)から各国陸連等に発信される通達文書一覧

IAAF（国際陸上競技連盟）は、各種伝達事項を、サーキュラー（通達）として各国陸連をはじめ関係者に送付している。2015年に発信された全通達のタイトルは次の通りである。

このうちIAAFカウンシル会議での重要決定事項等については、陸連時報にIAAFカウンシル会議報告で掲載しているので、過去の陸連時報をご参照頂きたい。

なお、各通達番号の最初の英文字“M”は「各国陸連宛て」を示し、次の数字は通し番号、最後の数字は年を示している。

（例）「M/01/15 IAAF世界記録リスト」は「2015年第1通目の各国陸連宛通達」であることを示す。

M/01/15	2015年IAAF世界記録リスト	2015年1月1日
M/02/15	2014年 年次報告について	2015年1月16日
M/03/15	ワールドアスレチックデー 2015について	2015年1月16日
M/04/15	IAAF 世界選手権2015北京大会 メディア申請について	2015年1月19日
M/05/15	IAAF主催競技会参加時の旅行医療保険加入について	2015年1月21日
M/06/15	世界リレー 2015の案内（パナマ・ナッソー）	2015年1月30日
M/07/15	IAAF主催競技会の開催立候補受け付けについて （2018年 世界ハーフ選手権、世界ジュニア選手権）	2015年1月30日
M/08/15	IAAF世界ユース陸上競技選手権大会の案内（2015年7月15日～19日、コロンビア・カリ）	2015年2月9日
M/09/15	IAAF 選手コミッションの選挙について	2015年2月13日
M/10/15	IAAF各種申請書類の提出期限とIAAFオフィスの休業日について	2015年2月17日
M/11/15	IAAF 世界陸上競技選手権2015北京大会 追加情報	2015年2月27日
M/12/15	IAAF世界ユース・コーチカンファレンスについて	2015年3月3日
M/13/15	IAAF Sustainable Development Awards	2015年3月20日
M/14/15	IAAF Women in Athletics Award	2015年4月1日
M/15/15	IAAFカウンシル会議 決定事項と各種情報（2015年4月15日/16日、中国・北京）	2015年4月30日
M/16/15	第50回IAAF総会（2015・北京）情報	2015年5月4日
M/17/15	IAAF倫理規程	2015年5月5日
M/18/15	IAAFアンチ・ドーピング規程	2015年5月7日
M/19/15	IAAF倫理規程、IAAF選挙、IAAF総会（2015年8月19日/20日、中国・北京）	2015年5月15日
M/20/15	第50回IAAF総会（IAAF規則変更について）	2015年5月18日
M/21/15	第50回IAAF総会（選挙立候補者リスト）	2015年5月28日
M/22/15	第50回IAAF総会（総会アジェンダ）	2015年6月16日
M/23/15	IAAF 選手コミッション 立候補者リスト	2015年6月24日
M/24/15	第50回IAAF総会資料	2015年8月13日
M/25/15	IAAF 選手コミッション 選挙結果	2015年8月31日
M/26/15	IAAFカウンシル会議 決定事項と各種情報（2015年8月17日、中国・北京）	2015年9月14日
M/27/15	第50回IAAF総会 決定事項と各種情報（中国・北京）	2015年9月15日
M/28/15	IAAF世界ハーフマラソン選手権大会の案内（2016年3月26日、カーディフ・英国）	2015年10月6日
M/29/15	IAAF 特別普及基金（Athletics Olympic Dividend）について	2015年10月26日
M/30/15	IAAF世界室内陸上競技選手権大会の案内（2016年3月17日～20日、米国・ポートランド）	2015年11月11日
M/31/15	IAAF競技者代理人規定（世界30傑対象）について	2015年12月1日
M/32/15	IAAF主催競技会の開催立候補受け付けについて （U20世界陸上競技選手権大会、世界競歩チーム選手権）	2015年12月3日
M/33/15	IAAFカウンシル会議 決定事項と各種情報（2015年11月26日、モナコ）	2015年12月12日
M/34/15	ワールドアスレチックデー 2016 について	2015年12月15日
M/35/15	IAAF世界室内陸上競技選手権大会追加情報	2015年12月18日
M/36/15	IAAF選手コミッション	2015年12月21日
M/37/15	2015年IAAF通達発信一覧	2015年12月22日

2015数字で見る陸上競技 Vol.4 都道府県別高校生陸上競技部員割合

事務局

2015数字で見る陸上競技、4回目の今回は、高校生の陸上競技部員の全高校生生徒数における割合を都道府県別にご紹介します。2014年度の日本陸上競技連盟における高校生登録者を、同年度の高校生生徒数（文部科学省調べ）で割ったものです。

【算出方法】割合（%）＝（高校生陸連登録者数）÷（高校生全生徒数）×100

都道府県名	2014年度高校生陸連登録者数	前年比	前年数	2014年度高校生全生徒数	2014年度割合	2013年度高校生全生徒数	2013年度割合
北海道	4,450	91	4,359	134,616	3.3%	134,359	3.2%
青森	1,625	-1	1,626	38,266	4.2%	38,001	4.3%
岩手	1,748	-17	1,765	35,879	4.9%	35,750	4.9%
宮城	2,553	164	2,389	61,583	4.1%	61,477	3.9%
秋田	1,484	-35	1,519	26,926	5.5%	26,882	5.7%
山形	1,636	66	1,570	31,945	5.1%	31,818	4.9%
福島	2,117	130	1,987	54,952	3.9%	54,705	3.6%
茨城	2,338	214	2,124	79,089	3.0%	78,929	2.7%
栃木	1,507	80	1,427	54,446	2.8%	54,446	2.6%
群馬	1,718	29	1,689	53,421	3.2%	53,421	3.2%
埼玉	5,575	228	5,347	178,511	3.1%	178,294	3.0%
千葉	5,727	199	5,528	152,666	3.8%	152,565	3.6%
東京	8,435	318	8,117	316,058	2.7%	315,966	2.6%
神奈川	6,034	216	5,818	205,223	2.9%	205,023	2.8%
新潟	996	-1,494	2,490	61,504	1.6%	61,476	4.1%
富山	2,638	1,511	1,127	28,857	9.1%	28,574	3.9%
石川	1,203	-78	1,281	32,306	3.7%	32,233	4.0%
福井	1,315	557	758	23,235	5.7%	23,159	3.3%
山梨	798	-148	946	26,346	3.0%	26,379	3.6%
長野	1,764	106	1,658	59,093	3.0%	59,093	2.8%
岐阜	4,147	1,980	2,167	56,681	7.3%	56,652	3.8%
静岡	7,654	3,659	3,995	100,819	7.6%	101,048	4.0%
愛知	2,251	-5,231	7,482	198,951	1.1%	198,742	3.8%
三重	2,291	120	2,171	50,583	4.5%	50,483	4.3%
滋賀	1,672	136	1,536	39,510	4.2%	39,513	3.9%
京都	2,501	115	2,386	72,147	3.5%	72,018	3.3%
大阪	6,561	242	6,319	236,529	2.8%	236,403	2.7%
兵庫	5,827	288	5,539	145,112	4.0%	144,968	3.8%
奈良	1,215	79	1,136	37,537	3.2%	37,390	3.0%
和歌山	851	4	847	28,523	3.0%	28,446	3.0%
鳥取	755	-6	761	15,500	4.9%	15,419	4.9%
島根	855	10	845	18,889	4.5%	18,852	4.5%
岡山	1,603	104	1,499	55,306	2.9%	54,948	2.7%
広島	2,907	48	2,859	74,445	3.9%	74,373	3.8%
山口	1,758	70	1,688	35,340	5.0%	35,058	4.8%
徳島	555	12	543	19,983	2.8%	19,904	2.7%
香川	916	-28	944	26,472	3.5%	26,202	3.6%
愛媛	1,429	56	1,373	36,071	4.0%	35,840	3.8%
高知	553	-62	615	19,831	2.8%	19,583	3.1%
福岡	4,313	265	4,048	133,038	3.2%	132,049	3.1%
佐賀	1,255	32	1,223	25,711	4.9%	25,562	4.8%
長崎	1,988	30	1,958	40,868	4.9%	40,571	4.8%
熊本	1,620	-38	1,658	49,680	3.3%	49,211	3.4%
大分	1,022	22	1,000	32,787	3.1%	32,337	3.1%
宮崎	1,013	-18	1,031	33,345	3.0%	32,869	3.1%
鹿児島	1,507	16	1,491	48,026	3.1%	46,721	3.2%
沖縄	897	121	776	47,413	1.9%	47,353	1.6%
合計	115,577	4,162	111,415	3,334,019	3.5%	3,325,065	3.4%

※高校生全生徒数は、文部科学省ホームページ統計情報（http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/main_b8.htm）内、学校基本調査の高等学校＞全日制・定時制 学年別生徒数 からの抜粋

大会観戦ガイド

第99回日本陸上競技選手権大会男子・女子20km競歩 兼第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ) 男子・女子20km競歩代表選手選考競技会 第27回ジュニア選抜競歩大会

昨年は高橋英輝選手(現・富士通)が日本記録を更新し、毎年盛り上がりを見せている日本選手権競歩。今年も有力選手が出場します!

▼日時: 2016年2月21日(日)

▼コース: 兵庫県神戸市・六甲アイランド甲南大学周辺コース

▼種目・スタート時刻

男子20km競歩(日本選手権) 9時50分

女子20km競歩(日本選手権) 10時10分

ジュニア男子10km競歩

8時50分

ジュニア女子5km競歩

9時00分

▼問合せ先:

一般財団法人
兵庫陸上競技協会
TEL 078-231-1771

▼日本陸連WEB内
大会ページ

[http://www.jaaf.or.jp/
taikai/1297/](http://www.jaaf.or.jp/taikai/1297/)



昨年度の男子20kmWは高橋英輝選手(左/当時・岩手大、現・富士通)が鈴木雄介選手(富士通)を抑えて優勝

シニア女子 8km(日本選手権種目) 12時10分

シニア男子 12km(日本選手権種目) 13時00分

▼テレビ放送予定:

JNN全国28局ネット

2月27日(土)

15時30分~16時54分(予定)

▼問合せ先: 福岡クロカン運営本部事務局

TEL 092-738-2180

▼日本陸連WEB内大会ページ

[http://www.jaaf.or.jp/
taikai/1298/](http://www.jaaf.or.jp/taikai/1298/)



東京マラソン2016

兼第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ) 男子マラソン代表選手選考競技会

10回目を迎える東京マラソン。今年の夏にブラジル・リオデジャネイロで開催されるオリンピックの男子代表選手選考会を兼ねています。今年も多くのご声援をお願いします。

▼日時: 2016年2月28日(日)

9時05分(車いすマラソン・10km)、

9時10分(マラソン・10km) スタート

▼会場: スタート/東京都庁前

フィニッシュ/東京ビッグサイト(マラソン)、
日比谷公園(10km)

▼コース: マラソン/東京都庁~飯田橋~皇居前~日比谷~品川~銀座~日本橋~浅草雷門~築地~豊洲~東京ビッグサイト、10km/東京都庁~飯田橋~皇居前~日比谷公園

▼テレビ放送予定: 日本テレビ系全国ネット

2月28日(日)9時00分~

▼交通規制のご案内: 警視庁

HP [http://www.
keishicho.metro.tokyo.jp/](http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/)

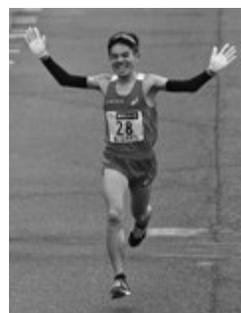
▼問合せ: 一般財団法人東京マラソン財団

TEL 03-5500-6802

[http://www.marathon.
tokyo/](http://www.marathon.tokyo/)

▼日本陸連WEB内
大会ページ

[http://www.jaaf.or.jp/
taikai/1299/](http://www.jaaf.or.jp/taikai/1299/)



昨年の日本人1位は、自己ベストを更新した今井正人選手(トヨタ自動車九州)

第99回日本陸上競技選手権大会 クロスカントリー競走

日本陸上競技選手権大会として開催されるクロスカントリー競走。大自然の中の白熱したレースをお楽しみ下さい!

▼日時: 2016年2月27日(土)

▼会場: 国営海の中道海浜公園クロスカントリーコース
福岡県福岡市東区大字西戸崎

▼アクセス:

JR鹿兒島線「博多」駅発「香椎」駅乗り換え「西戸崎」駅下車

福岡市営渡船ベイサイドプレイス発、西戸崎港下船
西鉄バス「天神中央郵便局前」発、「西戸崎駅前」下車

うみなかラインもち(マリゾン)発、海の中道下船

▼種目・スタート時刻

ジュニア女子 6km 11時00分

ジュニア男子 8km 11時30分

**第71回びわ湖毎日マラソン大会
兼第31回オリンピック競技大会(2016 /
リオデジャネイロ) 代表選手選考競技会
兼第100回日本陸上競技選手権大会男子マラソン**

男子マラソンのリオオリンピック代表最終選考会としても、熱い争いが繰り広げられます!

▼日時: 2016年3月6日(日) 12時30分スタート

▼会場(スタート・フィニッシュ):

滋賀・皇子山陸上競技場

滋賀県大津市御陵町4-1

▼アクセス(皇子山陸上競技場):

京阪石山坂本線「別所」駅から徒歩1分またはJR湖西線「大津京」駅から徒歩7分

▼コース: 日本陸連公認びわ湖毎日マラソンコース(42.195km) = 皇子山陸上競技場 - 柳が崎 - 瀬田唐橋西詰 - 石山寺 - 瀬田川洗堰 - 瀬田唐橋東詰 - 県立漕艇場 - 新瀬田浄水場前折り返し - 皇子山陸上競技場

▼放送予定: 3月6日(日)

<テレビ> 12時15分~14時55分 NHK総合

<ラジオ> 12時15分~14時55分 NHKラジオ第1

▼問合せ先: びわ湖毎日マラソン大会事務局

TEL 06-6346-8249

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1300/>



昨年の大会より。雨中のなか、熱い戦いが繰り広げられた

**名古屋ウィメンズマラソン2016
兼第31回オリンピック競技大会(2016 /
リオデジャネイロ) 代表選手選考競技会
兼第100回日本陸上競技選手権大会女子マラソン**

大型ウィメンズマラソンとして生まれ変わって5年目を迎える名古屋ウィメンズマラソン。女子マラソンのリオオリンピック代表最終選考会として開催します!

▼日時: 2016年3月13日(日) 9時10分スタート

▼会場(スタート・フィニッシュ):

愛知・ナゴヤドーム

愛知県名古屋市東区大幸南1-1-1

▼アクセス(ナゴヤドーム):

地下鉄、ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前矢田」駅から徒歩5分、JR、名鉄「大曽根」駅から徒歩約15分

▼コース: 名古屋ウィメンズマラソンコース

▼テレビ放送予定: 東海テレビ(フジテレビ系列全国ネット) 3月13日(日) 9時00分~11時50分(選考レース)

▼問合せ先: マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知ランナーコールセンター

TEL 0570-550661

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1302/>



昨年は前田彩里選手(ダイハツ)が好タイムで日本人1位に

**第40回全日本競歩能美大会 兼
Asian 20km Race Walking Championships in NOMI 2016
兼 第31回オリンピック競技大会(2016 / リオデジャネイロ)
男子・女子20km競歩代表選手選考競技会
併催 第10回日本学生20km競歩選手権大会**

アジア選手権を兼ねて開催する本大会。日本のトップウォーカーがアジアNo.1を目指してハイレベルな争いを繰り広げます。また、今夏、ブラジル・リオデジャネイロで開催されるオリンピックの男子・女子20km競歩の代表選手選考競技会としても開催します。

▼日時: 2016年3月20日(日)

▼コース: 石川県能美市・日本陸上競技連盟公認能美市営20kmコース(2.0km周回コース)

▼アクセス(石川県能美市浜小学校付近):

小松空港からタクシーで約15分。北陸本線「小松」駅もしくは「能美根上」駅下車、小松駅からタクシーで約15分、能美根上駅からタクシーで約3分、徒歩約7分。

▼種目・競技時間:

<男子>

中学生 3km競歩 9時05分

全日本・Asian・学生選手権

20km競歩 9時45分

<女子>

中学生 3km競歩 9時00分

全日本・Asian・学生選手権

20km競歩 11時35分

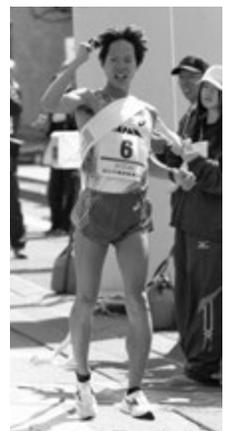
▼問合せ: 第40回全日本競歩

能美大会実行委員会事務局

TEL 0761-58-2273

▼日本陸連WEB内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1303/>



昨年は鈴木雄介選手(富士通)が世界新記録をマークして、注目を浴びた

JAAF
TOYAMA

一般財団法人富山陸上競技協会

〒939-8234 富山県富山市南中田368番地
富山県総合運動公園陸上競技場内
TEL.076-461-5917 FAX.076-461-5927
<http://www.jaaf-toyama.net/>

本年3月の北陸新幹線開業を記念して、11月1日(日)に富山マラソン2015が開催された。本協会も主催者に名を連ね、220名の態勢で審判業務にあたった。

当日は快晴に恵まれ、立山連峰がその雄大な姿を現し、全国から集った12,000人のランナーを歓迎してくれた。歴史ある高岡市の町並み、射水市にある新湊大橋、富山市の城址公園や環水公園等魅力あふれるコースには、4,000人を超えるボランティアによる”おもてなし”もあった。参加者には、富山の人、自然や歴史に触れながら存分にマラソンを楽しんでいただけたものと思う。

多くの陸上競技愛好者の声に応えるとともに、「谷井君に続け」、「2020年東京オリンピックには是非とも本県から選手を」と強化の大きな目標を掲げ、協会のさらなる体制整備に努めたい。



富山マラソン2016
10月30日(日)開催決定!
4月1日インターネット受付開始

JAAF
ISHIKAWA

一般財団法人石川陸上競技協会

〒923-1244 能美市来丸町ワ50 物見山陸上競技場内2階
TEL.0761-51-3222 FAX.0761-51-3222
<http://gold.jaic.org/jaic/member/ishikawa/index.htm>

「北陸新幹線開業」、NHKの連続ドラマ「まれ」で話題を提供、多くの観光客が訪れ、また12,000人のランナーが古都金沢市内を走り抜けた「第1回金沢マラソン」(沿道応援20万人)も無事終了し平成27年も終わりました。平成28年は1月1日の元旦に旧金沢城1周を走る「県耐寒継走」で幕を開けました。

本年はリオデジャネイロオリンピックの年です。陸上競技の中でメダル・入賞に最も近いのは競歩競技では、と期待する関係者も多いです。

その予選が3月20日に第40回全日本能美競歩大会(20km)、4月17日に第100回日本選手権大会50km競歩(輪島)で開催されます。当協会としても運営面だけでなく、選手が最大限の力を発揮できる環境作りを万全を期したいと思っています。

選手育成・強化の面では、昨年は全国中学生駅伝に於いて女子で津幡南中学が2位に入る素晴らしい活躍があったものの高校駅伝や国民体育大会等においては残念ながら日26年度を下回る結果しか残せませんでした。1人ひとりの選手や監督は毎日一生懸命に努力しています。その努力の成果が出せる環境作りやバックアップ体制は当然ながら、競技人口の拡大・普及、若手の審判員の養成など多くの課題に向け、今年度もしっかり取り組んで行きたいと思っています。本年も宜しくお願いします。

(文責:副専務理事 松本彰)

JAAF
FUKUI

一般財団法人福井陸上競技協会

〒918-8585 福井市三十八社町33-66 フクビ化学工業株式会社内
TEL.0776-38-0360 FAX.0776-38-0361
<http://www.fukui-jaaf.com/>

平成27年度もトラックシーズンが終了し、アスリート諸君は、現在冬季トレーニングに励んでいると思います。福井県のアスリートも今週から降り始めた雪の中、トレーニングに励んでいます。

平成27年度を振り返りますと、今年度は若いアスリートの大いなる活躍が目立った年でありました。まずは8月に開催された、第42回全日本中学校陸上競技選手権大会にて、2名の優勝者が誕生しました。

男子砲丸投で優勝したのは奥村仁志選手(和泉中学校)です。和泉中学校は現在全校生徒9名、3年生は5名という小規模校です。練習場所もサークルがなく、中庭で練習している状況ですが、身長187cm、体重125kgという恵まれた身体能力を生かし優勝しました。

女子走高跳で優勝したのは藪輪夢未選手(鯖江中央中学校)です。まだ中学2年生であり、ベスト記録が1m73cmという今後の活躍が大いに期待される逸材です。

高校生では、第9回日本ユース陸上競技選手権大会女子200mと400mの2種目で優勝した島田雪菜選手(敦賀高校)が目立ちました。陸上競技を始めてまだ1年半しかたっており、コーチの橋本洋先生曰く「50年に1人の逸材」という選手です。今後の活躍が楽しみです。

大学生では北川貴理選手(順天堂大学)が第84回日本学生陸上競技対校選手権大会男子400mで優勝しました。今後はいかに、世界に向かって本気で挑んでいけるかが課題になります。

2年後に開催される、『2018福井しあわせ元気国体』で陸上競技の選手達が大きに活躍できることを心より期待しております。

(文責:専務理事 木原靖之)

JAAF
NAGANO

一般財団法人長野陸上競技協会

〒381-0038 長野市東和田632 長野市営陸上競技場内
TEL.090-1867-7044 FAX.026-241-5155
<http://nagano-rk.com/>

本県では初となる全日本中学校陸上競技選手権大会開催の正式決定から3年あまりの年月が経過し、開幕まで8ヶ月を切りました(2016年1月現在)。開催地となる松本平広域公園陸上競技場(松本市)は、日本のほぼ中央に位置し、標高は約650mと、これまで42回を重ねてきた本大会の歴史において、最も標高の高い会場となります。日中は35℃を超える猛暑日になることもあります。朝夕の風は肌心地よく、高原特有のさわやかな気象条件がそろえば、本大会における日本中学記録の誕生も夢ではないと考えています。

競技場の使い勝手や、宿泊・交通を含めた周辺事情ではやや心配される声も聞かれますが、真心とアイデアを凝らし、信州らしいおもてなしで全国の皆様をお迎えできるよう、精一杯準備をさせていただきます。

(文責:全中担当理事 酒井剛)



事務局からのお知らせ

◆◆「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」

～2020年へ向けた若手アスリートの海外挑戦支援～2016年春期募集のお知らせ◆◆

公益財団法人日本陸上競技連盟と公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団は2020年へ向けた若手アスリートの海外挑戦を支援する「安藤財団グローバルチャレンジプロジェクト」の春期募集の実施を決定しました。

概要	将来国際大会でメダル獲得を志す陸上競技の若手アスリートの海外挑戦を支援する。
目的	本プロジェクトを通じて、トップアスリートとして求められる資質を身につけ、将来のメダリストの誕生を目指す。
支援内容	海外短期活動支援 1ヶ月～3ヶ月での海外合宿、転戦、短期留学など
支援対象期間	2016年7月～9月
募集スケジュール(予定)	エントリー 2016年3月1日(火)～4月15日(金) 面接 4月下旬～5月上旬 対象者の決定 5月中旬～5月下旬

2016年3月1日(火)から4月15日(金)の期間に海外短期活動支援のエントリーを開始致します。

▼詳細は公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団HPをご覧ください。

<http://www.ando-zaidan.jp/>

◆◆メールマガジン登録受付中!◆◆

日本陸連公式メールマガジン「JAAFアスレティックメール」を好評配信中です。

メールマガジンでしか読むことのできないコンテンツやプレゼントなども実施していますので、ぜひご登録ください。

登録は<http://mm.jaaf.or.jp/mailmagazine>か、右のQRコードから!



陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)
友永 義治 (陸連副会長)
八木 雅夫 (陸連副会長)
尾縣 貢 (陸連専務理事)
原田 康弘 (陸連強化委員長)
風間 明 (陸連事務局長)
牧野 豊 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
高橋 祐哉
小川ちあき

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>